

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.220

2024. 2. 2

発行：平和憲法・9条をまもる
岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL 019-684-2225

FAX 019-684-2227

すすめよう！「憲法改悪を許さない全国署名」 岩手の署名は 31,196 筆（～1月末。うち郵送 352 通・1,369 筆）

憲法を守る街頭行動で気づかされたこと—平和憲法を守る河南9条の会—

私たち盛岡市河南地区の「平和憲法を守る河南9条の会」は、毎月9日に7～9名で、肴町アーケード街入り口付近で改憲反対の全国署名に取り組んでいます。

そこは繁華街の一角にあたり、大きなバス停もあって行き交う人や信号・バスを待つ人への訴えには絶好の場所です。会では、街宣原稿も毎回手を加えて吟味し、弁士も3～4名で入れ替わりながら訴えています。

しかし、メンバーも高齢化のため長時間を避け、夏の猛暑や冬季の冷えこみも考慮し、行動時間は正午から30分間としています。

このごろは、数年前に始めた頃とはちがい、署名をしてくれる人がめっきり少なくなり、ついにゼロの日も出るようになりました。それで「会」では署名だけでなく、「日本国憲法の平和の核心」と要約したチラシ配布も加え、ときには「新しい戦前」への不安感をシール投票にすることも行ってきましたが、反応は芳しくありませんでした。

そうした悩みを抱えるようになったあるとき、ひとつひらめいたことがありました。9月まで続いたNHKの朝ドラ「らんまん」の主人公、万太郎（牧野富太郎）の服装です。彼が植物採集で野山に行くにも、ジャケットにネクタイの出立なのは植物に対する愛情と尊敬の気持ちを表していたということです。

一方、自分たちをふり返えると、日本国憲法という崇高な最高の法律を守る訴えをする活動が、憲法に畏敬の気持ちをこめて、それにふさわしい服装と態度で主権者の市民に生きいきと訴える姿となって映っているだろうかということが頭をよぎったのです。

それです、自分が試してみようと思い10月9日は上着をジャケットにし、鳩のタイを結び、革靴を履いて立つことにしたのです。それまでのラフな服装とは違った身だしなみにしたのです。

そして1回目、チラシを「どうぞお読みいただけませんか」と市民に差し出すと、手を横に振って受け取らない人もいるけれども、はじめ受け取りをためらってから、こちらを見て、それから受け取る人が次第に多くなっていくことに気づきました。また若いご夫婦は久しぶりに快く貴重な署名もしてくれました。チラシはそれまで数部しか受け取ってもらえなかったのに、手持ちがなくなり、補充して配ることとなったのです。2回目の11月も自分から20枚を上回って受け取ってもらえたのです。

10月の街頭活動後の反省会で、このことを話したら、メンバーは虚を突かれたように驚き、やがて「なるほど」という納得の声となって受けとめてもらえました。

訴える側の言葉と態度とともに身だしなみの在り様は自身の意気込みや人格の表出であり、それは受け取る市民へのリスペクト（尊重）にもなり、双方の信頼関係に欠かせない事だと、改めて思い知らされた自分です。（川村勝）



「2月の岩手の会街宣行動」 9日(金)12:15～12:45 盛岡市大通・野村証券前

12/16 大軍拡・改憲より、くらし・平和を！学習交流会に160人参加



市民アクション岩手の会ほか数団体共催で開催。講師のTBS報道特集特任キャスターの金平茂紀さんは、まずロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ攻撃の実相と歴史的背景について報告。ウクライナ戦死者はロシア軍12万7千人、ウクライナ軍7万人に上り、戦争が長期化していますが、ロシア国内ではポスト・プーチンが公然と話題に。「ロシア・プーチンが勝つことはなく、凋落状態が続く。戦争放棄や交戦権を否認する日本の憲法9条の価値がますます高まっている」と説明しました。

自民党の政治とカネ問題については、「裏金で政治が動いてきた。自民党政治が内部崩壊を起こし始めているが、傍観者ではダメ」と話し、「主役は市民・有権者、声をあげていこう。政権交代の可能性がないのならそれをつくっていこう」と訴えました。

見逃し配信

⇒ <https://youtu.be/sQFS1eMZdYo>



お知らせ①「さようなら原発岩手県集会2024」

3月17日(日) 10:00~12:00

岩手教育会館 多目的ホール **参加無料** 参加締切: 3/8

講師: 樋口英明さん(元福井地裁裁判長)

※当日はライブ配信も実施。女川原発再稼働反対運動報告、アピール行進も行います。

“原発を止めた裁判長”来盛!



お知らせ②映画「廃墟と化した鉄の町—釜石艦砲射撃の記録—」盛岡上映会

3月23日(土) 10時半~、14時~ アイーナ小田島組☆ほ~る

前売: 一般1,000円(当日1,200円) 小中高大学生500円(当日同額)

コラム — 「米側『2国家共存』要求 イスラエルと電話首脳会談」 —

今年の新年は、引き続きロシアのウクライナ侵略、イスラエルとハマスの「戦争」に加え、年始早々能登半島地震の被災や飛行機の衝突事故の惨事と、例年の“松飾り”気分にはなれない新年だったと思います。このコラムでは“戦争止める!” 戦の無い世のなかの実現!”と日本国憲法に立脚して訴えてきました。今回も先ず報道(抜粋)をみてみましょう。

「米側『2国家共存』要求 イスラエルと電話首脳会談」【エルサレム共同 ‘24・1・21付け岩手日報】バイデン米大統領は19日、イスラエルのネタニヤフ首相と電話会談し、パレスチナ国家樹立によるイスラエルとの「2国家共存」を望む米政権の立場を伝えた。ネタニヤフ氏は18日の記者会見で共存を拒否したばかり。…米国家安全保障会議(NSC)のカービー戦略広報調整官によると、バイデン氏は「2国家共存がイスラエルの安全を保障する」と強調。…

ならばコラム子はバイデン米大統領にいいたい。

- (1) 他方で「イスラエルを支持し、支援(軍事支援含む)する」との“二枚舌”外交を止めること。
- (2) 1948年国連決議「2国家共存」政策の立場に、国連とともに立った外交をすること。
- (3) 日本の政府、岸田首相は“アメリカ言いなり”ではなく、日本国憲法に立脚した外交、「国連決議」に立脚した自主的な外交を行うこと。

今年、コラム子は日本国憲法に基づいて“戦の無い世の中”の実現!を目指して、頑張りたいと思っております。(T)